

特別史跡加曽利貝塚のさらなる解明に向け、今年も発掘調査を開始！
～北貝塚における後期集落の実像に迫ります～

千葉市では、特別史跡加曽利貝塚の第3期調査として、57年ぶりに北貝塚の本格的な発掘調査を、令和5年度から継続して実施してきました。

このたび、第3期調査の3年目にあたる今年度の調査を9月17日（水）から開始しますので、お知らせします。

令和5・6年度の調査では、縄文時代後期（今から約4,000年前）の所産と推定される無数の柱穴群や大量の遺物（縄文土器・石器・土偶など）が見つかりました。「中期（今から約5,000年前）の北貝塚」というこれまでの位置付けに再考を迫られている中、今年度の調査は北貝塚における後期集落の実像に迫る特に重要な調査になります。

1 実施概要

（1）調査期間

令和7年9月17日（水）～11月29日（土） 各日9：00～16：00

※日・月曜日、祝休日を除く

※猛暑・雨天等の場合は調査休止。調査休止の場合は、加曽利貝塚博物館ホームページの「発掘調査日誌」で周知します。

（2）調査場所

特別史跡加曽利貝塚 北貝塚 500㎡（別紙資料参照）

（3）調査内容

ア 遺構の分布確認

（ア）柱穴群の精査

令和5年度の調査で確認した、調査区西側の柱穴群について一部掘削・精査を行い、遺構の時期や性格を明らかにします。

（イ）遺物集中地点の精査

令和6年度の調査において、調査区東側で検出した縄文時代後期の遺物が集中する地点（「遺物集中地点」と仮称）の掘削と精査を行い、柱穴群やその他遺構の有無と広がりを確認します。

イ 旧調査地点の再発掘

昭和37（1962）年の第1次調査第2地点の再発掘を実施します。当該地点は、当時の発掘調査で、縄文時代後期（今から約4,000年前）の竪穴住居跡や5体の埋葬人骨が検出されており、集落の変遷を把握する上で重要な地点です。令和5年度から継続して調査を行っています。

(4) 調査工程 (予定)

9月17日 (水)	調査開始
9月下旬から	遺構の分布確認 昭和37年調査区の再発掘 (排出土のフルイがけ作業を含む)
10月上旬から	遺構の掘削・精査
11月中旬	報道機関向け現地レクチャー
11月28日 (金)	記録作業等の終了
29日 (土)	現地説明会
12月上旬から	埋戻し・養生作業
12月20日 (土)	撤去完了

(5) 調査実施体制

教育委員会事務局職員2人・発掘調査員3人・作業員10人 計15人程度

3 見学者への対応

調査は常時公開しています。また、学芸員による現地ガイドや現地説明会を開催します。

(1) 学芸員 (発掘調査担当職員) による現地ガイド「フィールド・トーク」

ア 開催日時

調査期間中における発掘実施日の14:00～14:15

※調査休止日、雨天中止の場合を除く

イ 内容

調査成果の説明

(2) 現地説明会 (令和7年度調査成果の速報)

ア 開催日時

11月29日 (土) 10:00～15:00 (最終受付14:30)

イ 内容

(ア) 遺跡の説明、調査の目的の説明

(イ) 調査成果の説明

※学芸員による現地ガイド、現地説明会はいずれも参加費無料・事前申し込み不要で参加いただけます。

4 情報発信

加曽利貝塚博物館ホームページおよび現地掲示板で情報を発信します。

(1) 加曽利貝塚博物館ホームページ

「発掘調査日誌」ページで発掘調査の様子を発信します。(随時更新)

【URL】 <https://www.city.chiba.jp/kasori/research/investigation.html>



(2) 現地掲示板 (毎週更新)

ア 設置場所

発掘調査地点付近の園路

イ 掲示内容

(ア) 発掘調査の目的、概要

(イ) 前週までの調査成果

(ウ) 今週の調査予定

5 報道機関向け現地レクチャーの開催

調査成果の説明および11月29日（土）に開催する現地説明会の案内を行う、報道機関向け現地レクチャーを11月中旬に予定しています。日程等が決まり次第、現地説明会の詳細と併せて改めてお知らせします。

<参考> 特別史跡加曽利貝塚の本格的な発掘調査について

1 経緯

平成29年3月に、これまでの加曽利貝塚の発掘調査の成果を取りまとめた「史跡加曽利貝塚総括報告書」を刊行し、加曽利貝塚の全体像を示した一方で、集落と貝層の変遷の把握をはじめ、新たに解明すべき課題も浮き彫りになりました。

そこで、加曽利貝塚の構造や形成過程を解明するため、平成29年度から、第1・2期調査として南貝塚の本格的な発掘調査に着手しました。令和4年度までの6年間で、縄文時代晩期（今から約3,000年前）の集落と大型住居跡の存在が明らかになり、また、中央窪地の成因や貝層との関係についても新たな知見を得ることができました。

南貝塚について一定の成果が得られたことから、令和5年度からは新たに第3期調査として、北貝塚の「集落構造」や「貝塚形成の終焉期」の解明に向けた調査に着手しています。

2 第3期調査について

北貝塚は縄文時代中期の貝塚を伴う集落遺跡として広く知られていますが、貝層や住居跡、小竪穴や土坑などの遺構の分布や時期的な変化、すなわち集落の構造についてはいまだに多くの謎に包まれています。そこで、令和5年度から実施している第3期調査では、北貝塚の現状に鑑み、「遺構の分布確認」と「貝層の堆積状況の確認」そして「旧調査地点の再発掘」を調査の具体的な目的として掲げています。令和5・6年度の調査では、昭和37年と同41年に調査を実施した2カ所の旧調査地点の位置を確認したほか、縄文時代後期の所産と推定される遺構や遺物が多数見つかри、北貝塚における後期集落の存在が示唆されました。

今年度は、これまで位置付けの難しかった北貝塚の後期集落に焦点を当てて調査を実施します。